こども・いのち・みらいを考える
みんなをつなげる

こどみら

第８号(2016年１・２・３月号)
発行元：Teamこどもみらい
長野県松本市内
teamkodomomirai@gmail.com
070-5268-6347

ありがとう！「第４回」どんぐりプロジェクト２０１５

まだまだ必要とされています！

福島県福島市
福島ルンビニー保育園
吉岡副園長

この度は、このような素敵な贈り物をしていただき、お礼の言葉もありません。

震災後、初めて、他所さまからこのようなご支援をいただきました。本当に有難い気持ちでいっぱいです。

私たちは、放射能の汚染をとても気にして生活しています。

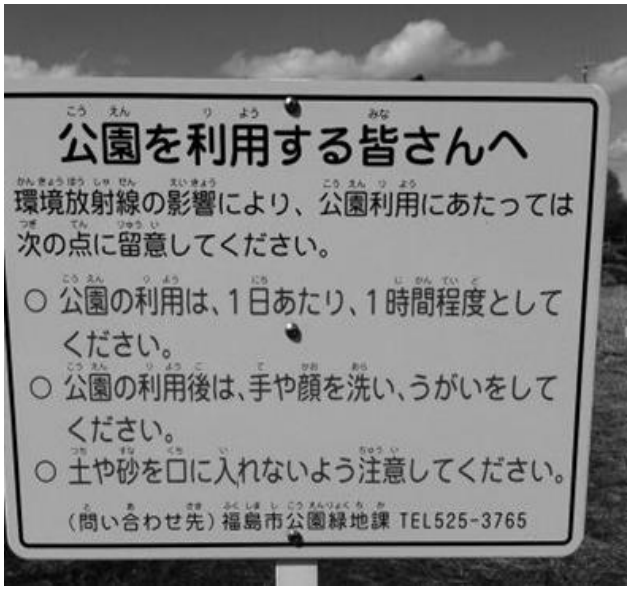
つい先日（※２０１５年１２月）にも、シャローム災害支援センターの吉野さんにお越しいただき、園庭の放射線量を測っていただいたばかりです。

子どもたちの安全安心について、これからも取り組んでまいります。

この度は本当にありがとうございました。

みなさんからいただいたどんぐりやまつぼっくりを被災地に贈り、多くの方に喜んでいただきました。原発震災の被汚染地域(福島県と近隣県を含む)では、下の写真のように外遊びを十分にすることのできない子どもたちがいます。

今後もどんぐりプロジェクトを続ける予定です。みなさまのご協力をお願いいたします。



＊集荷場所協力＊
オーガニックマーケットてとて(岡田下岡田)／ＣＡＦＥされど(中央)／シルバーカフェ沢村店(沢村)／日本チェルノブイリ連帯基金(浅間温泉)／ゆるカフェ日和 manaya(野溝木工)／美容室なごみ(塩尻市)(順不同)
＊取材協力＊
中日新聞
＊配送協力＊
ＮＰＯ法人シャローム災害支援センター
◎個人や団体の方々から多数お問合せや持ち込みをいただきました。本当にありがとうございました。

命をはぐくむ
～お母さん達へのメッセージ

２月20日(Ｍウィング６Ｆホール)、３月21日(市民活動サポートセンター)と２回に渡り、鎌仲ひとみ監督「小さき声のカノン」の上映会が行われました。

２月20日のフォーラムには、鎌仲ひとみ監督が来場し、放射能汚染地域に住み続けざるを得ない子どもたちにとっての保養の大切さを訴えました。

【特集：フォーラムアンケート三面】

３月21日上映会後の午後には、まつもと子ども留学主催で、「福島は今どうなってるの？ －２０１６年問題とは－」と題して、おしどりマコ・ケンさんが来松し、福島原発事故後のさまざまな問題を解説しました。

その中でおしどりマコさんは、「私たちは毎日、選挙をして生きている。何を選ぶか、何を食べるか、何にお金を使うか。一つ一つの選択が、あなたの一票ですよ」と強く伝えていました。

「こどみら」では、東日本大震災の避難者と支援団体・避難先地域・避難元地域を「つなげる」情報の共有を目的としています。身近にご存じのさまざまな情報をぜひお寄せください。取材に伺います。 宛先：teamkodomomirai@gmail.com　070-5268-6347

五年目に寄せて

あの頃の３月・・・２０１１年

神奈川県から熊本県に避難　Ｓ

原発が爆発してから五年経とうとしてる。

未だに放射能が漏れたままで、日々どうにもなっていないのに、なんだかすました顔して皆日常を生きている。生きながらどうにもならない未来へ向かっている。

あの頃の３月の晴れた空を思い出す。

だけど色んなことをもう捨てたり、忘れてしまったりしてきた。

原発が爆発していなければ私たちは今どこで何をしていただろう。

私のＣターン

千葉県より避難　Ｋ

２０１２年に、千葉県のホットスポットから松本に母子移住してから、丸４年。そして、震災後５年目の今年。松本に来た当時３歳だった娘は、４月には小学校に入学です。娘が松本の小学校に通うのが決まったのは、つい数ヶ月前。やっとここまでこぎつけた、ここからが正念場だ、という心境です。

避難当初しばらくは、千葉に住んでいる一部の身内からはあまり理解を得られず、早く戻るように、と言われ続けました。時には罵倒されることも…。同じような状況の方はたくさんいらっしゃると思います。私も非常に辛い思いをしました。

自分で選んだとはいえ、縁もゆかりもない土地に突然来て、母子で暮らし、仕事もしなければ生活できません。ただでさえ不安な状況なのに、身内から避難したことや子を心配する心情を否定され続けました。

＊「Ｃターン」とは＊
ＣターンのＣは、Ｃｈｉｌｄ（チャイルド：子ども）のＣ。子どもを環境汚染（放射能被曝など）から守るために、移住・避難・疎開を選択することです。

あたたかく見守ってくれる身内も一部にはいましたが、いつ、無理矢理連れ戻されるのか、身近な身内から縁を切られるのではないか、という不安とともにずっと暮らしていました。

それでも、ここまで親子で頑張ってこられたのは、松本で縁あって繋がった仲間たちや地元の方々のおかげです。

避難者仲間とは情報交換をしたり、避難者ならではの悩みを相談したり、愚痴を聞いてもらったり。娘が入院した時には、何人もの仲間に助けていただきました。

私自身が体調不良の時は、避難者仲間だけではなく、地元の方にも助けていただくこともありました。

避難してきたときは、縁もゆかりも無い松本の地でしたが、今ではたくさんのご縁に恵まれ、松本は第二の故郷となりつつあります。避難当時３歳で、松本でもう人生の半分以上を育った娘にとっては、本当に故郷なのでしょう。

松本でご縁があった方々にはもちろんですが、最終的に私たち親子が松本に暮らし続けることを認めてくれた千葉の身内たちにも感謝しています。

そして、物心つく前に父親から引き離され、それでも小さいながらに、「なぜ母子で松本に住んでいるか」を理解して、頑張っている娘、ほんとうにありがとう！

あなたが、元気に大人になって、素敵な人生を歩んでいける土台を築けるよう、おかあさんこれからも頑張るからよろしくね！！

不登校などのお子さんに寄り添うということ「はぐルッポ」・「はぐまつ」

3 月 17 日、松本市子育てコミュニティサイトプロジェクト事務局　西森　尚己さんの講演会がありました。西森さんは、震災直後の 2011 年 4 月、松本市と協働で子育てのワンストップサイト「はぐまつ」を立ち上げました。

3．11時は、和田の情報センターで「はぐまつ」サイトの最終作業を行っていました。その時抱いた危機感がきっかけとなり、避難者支援を続け、「まつもと震災支援ネット」にも参加しています。

はぐルッポとは、はぐ（ハグ（抱っこ）する、育む）＋グルッポ（イタリア語でグループ【組】）の意味を持たせて名づけました。

家庭環境、学校環境（いじめなど）などさまざまな理由により、不登校になってしまった、子どもたちを「受け止めて（ハグ）、みんなで（グルッポ）育てていこうよ！」という西森さんの熱い気持ちがこもっています。

「人生、山あり、谷あり、穴あり」深くて一人で上がれない穴に落ちてしまった子がいたら、みんなで考えて一緒に解決していきましょうよ、と呼びかけます。

子どものために、と日々の生活を振り返ったときに「見守りという名の放置」、「思いやりという名のウザさ」を子どもは感じているかもしれないですよ？本当に子どものためになっていますか？と問いかけます。

はぐルッポで作業をして帰る子が、「『はぐルッポ』は俺に元気をくれる場所だー！！」と叫びながら、自転車に乗って走っていくとき、西森さんもまた元気をもらうと嬉しそうに話していました。

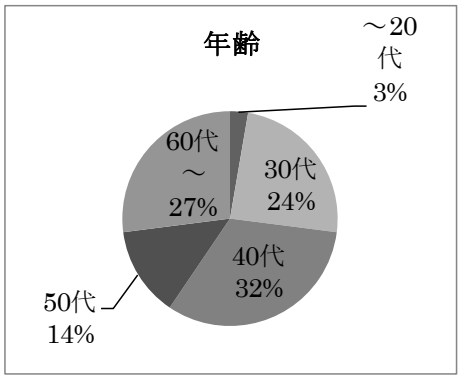
【問合せ先】
子ども支援・相談スペース旭・**はぐルッポ**
TEL:0263-31-3373（FAX 同）
E-mail：hugmatsu@sky.plala.or.jp

まつもと震災支援ネットフォーラム ～命はぐくむ～

1面で紹介した、鎌仲ひとみ監督「小さき声のカノン」（2 月 20 日、3 月 21 日上映）の来場者アンケートの中から幾つかを掲載します。

松本市と協働で被災者支援活動を続ける、まつもと震災支援ネット10団体主催のフォーラムとして開催され、約 80 名の来場者がありました。

- 久しぶりに身が引き締まる思いでした。
- 子どもを守れるのは親がしっかりしなければ。忘れてはいけないです
- 保養に取り組んでいこうという呼びかけるプログラムで市民の皆さんをさらに巻き込んでいければと思います。
- 保養について考えさせていただきました。長く必要なのですね。できることがあれば協力したいと思います。
- 少数派なことに慣れていて、どこか疲れたり、開き直っていたように思いました。お手伝いできることがあったら参加したいです。保養に携われるようになれたらいいです。
- 現状を知らない人がたくさんいます。私もそうです。でも目の前にいま、福島で子どもを育てなければならないお母さんを見れば、話を聞けば、人は心を動かされます。こういう機会は大切だと思いました。



第６７回全国植樹祭　６月５日（日）開催。緑はぐくむイベントにご参加を！

私たちTeamこどもみらいでは、被災地にどんぐりを贈る「どんぐりプロジェクト」の一環として、昨年から全国植樹祭に参加して、どんぐりの苗木を育ててきました。今年、5 月 27 日より全県で植樹会が行われます。　中信地区では、下記の日程となります。苗木の植樹会に、みなさんも参加してみませんか？

５／２７（金）　あづみの池田クラフトパーク（池田町）
５／２８（土）　湊地区＜本沢川上流＞（岡谷市）
６／　５（日）　アルプス公園（松本市）

全国植樹祭ながの 2016　検索

問合せ先：長野県庁　林務部　森林づくり推進課　全国植樹祭係
Tel　０２６－２３５－７２７６　Fax ０２６－２３４－０３３０

みんながおすすめのお店情報　～ ふぁーむしかない～

ふぁーむしかない
メール：haruki_0714@yahoo.co.jp
電話：090-3905-5458

長野県松本市で２００７年より農薬や科学肥料、除草剤を使用せずに野菜を多品目栽培しています。地元スーパーの地場産野菜コーナーなどで買うことができます。

お母さんたちに好評なのは、四季折々のお野菜をメールオーダーでお届けしてくれる、「お野菜セット」。日時も内容もできるだけ都合を合わせていただけます。

いつも利用しているお母さんの声を紹介します

鹿内さんの宅配お野菜を取り始めてから早２年近くになります。移住した当初は、とにかく西日本の汚染されてない地域の野菜じゃないと！と頑なだった私。

被曝対策として試行錯誤する中で『一番の対策は“活きた酵素を取り込む”ことでは？』と思い当たり、結局は『地産地消』『無農薬』にたどり着きました。　半割りした白菜を漬け物にしようと日に干していたら、ニョキッと芯から花が咲いちゃいました！ジャガイモからは、立派な芽が出て葉が伸びてきて！！　本当に「生きた命をいただいている」感じがします。

機会がありましたら、ぜひぜひ鹿内農園のお野菜をひとかじりしてみて下さい！きっと「明日も頑張ろう！！」と元気が湧いてきますよ！

ふぁーむしかないさんより

全ての野菜を無農薬、無化学肥料でつくっています。野菜の生命力を最大限に信じて、自分達はその手伝いをします。

野菜の声に耳をすまし、時には声がけして、野菜たちの顔をみながらの畑作業です。（でも、草取りが追いつかず、悔しいこともしばしばです）

野菜の命は尊くて、家族という感じでいます。

横浜市の小学校地下に除染土（放射性廃棄物）保管中

神奈川県横浜市内の複数の小学校では、2011年から少なくとも18校で8000ベクレル以上の汚染が確認され、除染が行なわれました。2015年も同様の数値が検出されました。

除染した堆積物などは、子どもたちの遊ぶ校庭に一部埋め戻され、また、高濃度のものは、ドラム缶に入れられ学校の地下室に保管されたままです。

福島県内でも、先日除染土を詰めたフレコンバックの劣化により飛散が確認されました。「仮置き場」でのずさんな管理も明らかになっています。

環境省は、被災地に溢れる放射性廃棄物の処理を全国で再利用する方針です。保管されている高濃度汚染物を地下30cm以下に埋め戻せば、周辺住民の外部被ばく量は年間10ミリシーベルトに抑えられるとして、公園や学校への除染土の埋め戻しや、公共物の建築資材として利用する方針を固めています。

汚染された鉄材などは、フライパンのような調理器具や子どもたちの遊具への再利用を行う方針です。原発震災前は、年間1ミリシーベルトが許容範囲でした。みなさんは年間何ミリシーベルトが許容範囲でしょうか？

編集・製作：こどみら編集部（編集責任者：瀬谷　理恵）
題字：海老原拓夫
協力：cafeされど／ユニオンサポートセンター／みなさま
取材協力：シャローム災害支援センター／福島ルンビニー保育園／まつもと震災支援ネット／はぐまつ・はぐルッポ／長野県林務部／ふぁーむしかない／学校・保育園の放射能対策＠横浜（順不同）

編集後記

「３１１甲状腺がん家族の会」が福島で立ち上がりました。３.１１後に甲状腺がんと診断され、設立趣旨にご賛同いただける方はどなたでも参加できるそうです。もし、判定Ａ２の会があったら我が家は参加します。　(S)

問合せ先：teamkodomomirai@gmail.com

【本誌を読み終わったら】　どうぞ、大切な方にお渡しください。ひとりの「いっぽ」を一緒に実現しませんか？